

測量の日特集

神奈川県は3次元点群データの活用に向けて本腰を入れ始めた。インフラの効率的な管理や災害時対応の迅速化などに効力を発揮する有用なツールだが、県内自治体では点群データを含む3次元データの活用例はまだ少ないのが実情だ。建

設現場の省力化・省人化に寄与し、人手不足解消や生産性の向上への決め手ともなる3次元測量について、6月3日の「測量の日」に合わせて特集する。

MMS(モバイルマッピングシステム)



「事業者の対応はどれくらい進んでいるのか。」

「市の担当者も3次元データのメリットを実感していたが、一方で市内全域で整備するにはどれくらいの時間と費用がかかるのか、相当のスペックを持つ機器を用意できる

「また、その後の復興・復旧に向けては地籍調査の実施が全国共通の課題となっ

ている。東日本震災では、地籍調査が比較的進んでいたことが迅速な復興につながったという事例もある。特に神奈川県は進捗率は15%程度と全国平均52%と比較してもかなり低い。そのため、予算を確保して調査を急ぐ必要がある。」

「担い手確保にはどのような対策を講じているのか。」

「人材確保に対しては以前から取り組んでいるが、難しい課題だと認識している。週休2日制の導入は必須であり、そのためには協会としては引き続き施工時期の平準化をお願いしていくつもりだ。また、3次元点群データの活用に伴い生産性の向上、作業の効率化、日々進化を続けている測量の技術を積極的に取り込んで受注につなげていくことができれば人材の確保は厳しい。」

「若し人材の育成にはどのように取り組んでいくか。」

「新たな技術に対応しながら、技術の継承にも取り組んでいかなければならない。近年は『機械が測ってくれる』という意識があるが、どうして作業規程があるのか、誤差はなぜ発生するかなど根本的な事項を理解してほしい。」

「測量は社会資本整備の第一歩とか災害時の復旧・復興に重要な役割を果たすと言われるが、道端で機械をのぞく印象が強く決して目立つ仕事ではない。3次元測量などが普及し、自分が作ったデータが目に見える形で残ることを実感できるようにすれば、測量への関心も広がるのではなかろうか。」

「近年、神奈川県が3次元点群データの活用に向けた検討を本格化しているが、事業者はこうした動きをどのように捉えているか。」

「県と各市町村が参加して3次元点群データの活用を推進する動きがあることは認識している。事業者にとっては3次元点群データの取得・活用によって点群データの精度は大きく異なる。現在までに取得したデータで完了と捉えるのか、さらに精度の高いデータを求めるのかによっても対応が違ってくる。防災・減災のための高精度なデータを取得するのであれば、予算の確保など具体的な方向性が明らかでないうちは設備投資に踏み切れない。」

「神測協の上部団体である全国測量設計業協会連合会では『未来の測量委員会』を立ち上げ、大手測量会社と地元事業者が共同で3次元データを作成する取り組みを進めている。実際に、数年前には川崎駅前の一部を対象に試行したこともある。」

「神測協の上部団体である全国測量設計業協会連合会では『未来の測量委員会』を立ち上げ、大手測量会社と地元事業者が共同で3次元データを作成する取り組みを進めている。実際に、数年前には川崎駅前の一部を対象に試行したこともある。」

「神奈川県内で同じような災害が発生した場合に地元業者でどこまで対応できるのか、協働体制をどのように構築していくかを見つめ直す必要がある」と実感した。地元事業者の役割として、まずは車や徒歩で被災の状況を確認することになる。災害時のドローンの活用も注目を集めているが、国や県、市町村が一斉に飛ばすには交通整理が必要になる。優先順位を付けるなど適切な取り決めがいる。大手企業との役割分担も含めて、地元事業者が何ができるかを改めて考えていかなければならない。」

「また、その後の復興・復旧に向けては地籍調査の実施が全国共通の課題となっ

「担い手確保にはどのような対策を講じているのか。」

「人材確保に対しては以前から取り組んでいるが、難しい課題だと認識している。週休2日制の導入は必須であり、そのためには協会としては引き続き施工時期の平準化をお願いしていくつもりだ。また、3次元点群データの活用に伴い生産性の向上、作業の効率化、日々進化を続けている測量の技術を積極的に取り込んで受注につなげていくことができれば人材の確保は厳しい。」

「若し人材の育成にはどのように取り組んでいくか。」

Interview

神奈川県測量設計業協会は技術講習会などを通じて3次元測量に関する情報提供に取り組んでいる。3次元点群データの活用に関する事業者の動向、激甚化・頻発化する自然災害に対して測量が担う役割や人材確保などの課題について同協会の千葉二会長に話を聞いた。



神奈川県測量設計業協会

千葉二 会長

求められる3次元測量へ

「各社の対応には差があると感じている。最先端の設備を導入している事業者もいれば、これから取り組んでいくところの事業者もいる。神奈川県は3次元測量の発注が少なく、取り組みが他県と比べてかなり遅れているというところが指摘されてきた。近年は発注も増えてきたので各社とも力を入れていくものと期待している。5月に協会が主催した3次元測量に関する技術講習会に約140人が参加しており、関心の高さを表れていると思う。」

「地元事業者が対応しているのは難しいのか。」

「3次元測量も含め、インフラ分野のDXは日々優れた機械やソフトが生まれている。それに対してどのような

かなどさまざまな課題も浮かび上がった。協会でも全測連の動向を注視しながら、技術講習会などを通じて会員に情報提供していく体制を整えていきたい。」

「能登半島地震を踏まえて

「神測協の上部団体である全国測量設計業協会連合会では『未来の測量委員会』を立ち上げ、大手測量会社と地元事業者が共同で3次元データを作成する取り組みを進めている。実際に、数年前には川崎駅前の一部を対象に試行したこともある。」

「また、その後の復興・復旧に向けては地籍調査の実施が全国共通の課題となっ



3次元データを取得するレーザー スキャナー

「担い手確保にはどのような対策を講じているのか。」

「人材確保に対しては以前から取り組んでいるが、難しい課題だと認識している。週休2日制の導入は必須であり、そのためには協会としては引き続き施工時期の平準化をお願いしていくつもりだ。また、3次元点群データの活用に伴い生産性の向上、作業の効率化、日々進化を続けている測量の技術を積極的に取り込んで受注につなげていくことができれば人材の確保は厳しい。」

「若し人材の育成にはどのように取り組んでいくか。」

「測量は社会資本整備の第一歩とか災害時の復旧・復興に重要な役割を果たすと言われるが、道端で機械をのぞく印象が強く決して目立つ仕事ではない。3次元測量などが普及し、自分が作ったデータが目に見える形で残ることを実感できるようにすれば、測量への関心も広がるのではなかろうか。」

「また、その後の復興・復旧に向けては地籍調査の実施が全国共通の課題となっ



一般社団法人 神奈川県測量設計業協会

会長 千葉二
副会長 岩崎敏明/江崎一馬/鈴木民男

横浜市中区山下町1シルクセンター内 TEL(045)662-6676 FAX(045)664-9560

6月3日は 測量の日

測量・地図は昔から私たちの生活の中に深くかかわってきました。「測量法」が1949年6月3日に公布されたことにより、6月3日が「測量の日」として定められました。測量に、より一層の御理解とご協力をお願いします。

川崎支部

支部長 江崎一馬
副支部長 鈴木繁
副支部長 仲條光俊

川崎市多摩区南生田5-2-6
(有限会社江崎測量設計社内)
TEL(044)977-3190
FAX(044)977-9699

横浜支部

支部長 鈴木民男
副支部長 田中準二
副支部長 山下洋一

横浜南区井土ヶ谷下町45-1
(昭和測量設計株式会社内)
TEL(045)714-5158
FAX(045)714-6766

神奈川支部

支部長 岩崎敏明
副支部長 角田真吾
副支部長 藤原寿

横須賀市日の出町1-12-7
(有限会社三浦建築測量内)
TEL(046)825-3451
FAX(046)825-3494

それは、
測量から始まる。

